

第4回8020童話賞
児童生徒の部 「最優秀賞」作

「いればはかせの大発明」

中学 2年生

「やったあ！ついにできたぞおー！」

ある朝、いればはかせの研究室けんせつしつから、こんな声が聞こえてきました。

いればはかせ？なんじゃそりゃと思った人、いるでしょ？

実は、いればはかせっていうのは、はかせの口の中がいればばかりだから、そう呼ばれているだけで、はかせの本当の名前じゃないんです。

本当の名前は、だあれも、知りません。

「ど、どうしたんですか！？」

ねぐせではねた髪の毛そのままに、研究室にとびこんできたのは、いればはかせの助手しきたの鹿田さんです。

「ぶっぶっぶっ、これお見たまえ、鹿田くん。」
はかせはそう言いながら、白衣のポケットから小さな瓶びんをとり出しました。

中には、きれいなオレンジ色の水が入っています。

「わしはついに、全世界のこともたちの夢をかなえたのじゃ！なんと、なんと、この薬を歯にぬっておくと、きっかり一年間は、歯はぴかぴか、もちろん、むし歯もできないのじゃー！」

えええ！？と鹿田さんは目を丸くしました。いえ、それだけでなく、とびあがって天井に頭をぶつけてしまいました。

とびあがるだけで天井に頭をぶつけるほど、鹿田さんは背が高いのです。

「わしも、最初は信じられなかった。じゃがな、わしのたったひとつ残っている、本物の歯にぬってみたのじゃ。ちゅっど一年前にな。

見てごらん。」

はかせはイーと歯をむき出して見せました。鹿田さんはまたまた目を丸くしました。

まるでしんじゆのように、その歯は光り輝いていたのです。

「す、す、すすすごいです、はかせ！」

鹿田さんは手をたたいておおよろこびです。

はかせはこの薬を五年間かけて、はかせの天才的な頭脳ずのうと、数えきれないほどの本を読みつくり、発明はつめいしました。

そしてもちろん、それをたくさん作りました。

こどもはもちろん、大人だっておおよろこびです。

なんだって、歯みがきをしなくなっちゃって、歯はきれいなままで、むし歯だってできないんですから。

はかせの名前は、世界中に広まりました。

世界中から何千通ものファンレターやお礼の手紙が届いて、はかせは有名人になりました。

しかし、この発明をあいづらがだまって見ているわけがないのです。

え？あいづらってだれかって？

決まっているじゃないか、歯がきれいな人がだいいっきらいなやつら・・・そう、虫歯菌たちです。

むし歯菌たちは 『いればはかせをやっつけよう』というテーマで世界中から集まって、

緊急会議きんぎょひぎを開きました。

「はかせがねている間に、口の中をつつきまわすってのはどうだい。」

と、ドイツのむし歯菌が言いました。

「いや、それよりも、はかせが大好きなケーキをぐちゃぐちゃにしちゃおうよ。」

と、インドのむし歯菌が言いました。

「そんなんじゃだめだよ。はかせのいればをすっかり抜いちゃうくらいしなきゃあ。」

と、日本のむし歯菌が言いました。

会議は、あーでもない、こーでもない、と三日三晩続きましたが、最後さいごには、あの薬の

作り方を盗み出すという作戦で決まりました。

ある夜、計画はついに実行されました。

むし菌菌一千万匹が力を合わせて、薬の作り方を書いた紙を盗み出したのです。

それはちょうど、はかせがあの薬で有名になってから一年がたったころでした。

さあたいへん！！

「あーん、薬がほしいよう。」

「えーん、菌みがぎ、いやだよう。」

世界中から泣き声が聞こえてきます。

はかせの家には『もっと薬を作って！』と書いてある手紙が大型トラックに五台分も送られてきました。

でも、作り方を書いた紙がないのですから、はかせにはもう、あの薬を作ることはできません。

じゃあ、はかせは新しい薬を作っているかって？いいえ。だって、はかせは気がついたんですもの。

自分の菌は、自分で菌みがきして守るのがいちばんだってことにね。